

稲作情報

Vol.4 平成25年7月2日

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部
 問い合わせ先:本吉農業改良普及センター
 TEL:0226-29-6044
 ホームページ: <http://www.pref.miyagi.jp/my-nokai/>



草丈は長め、茎数は必要茎数を確保

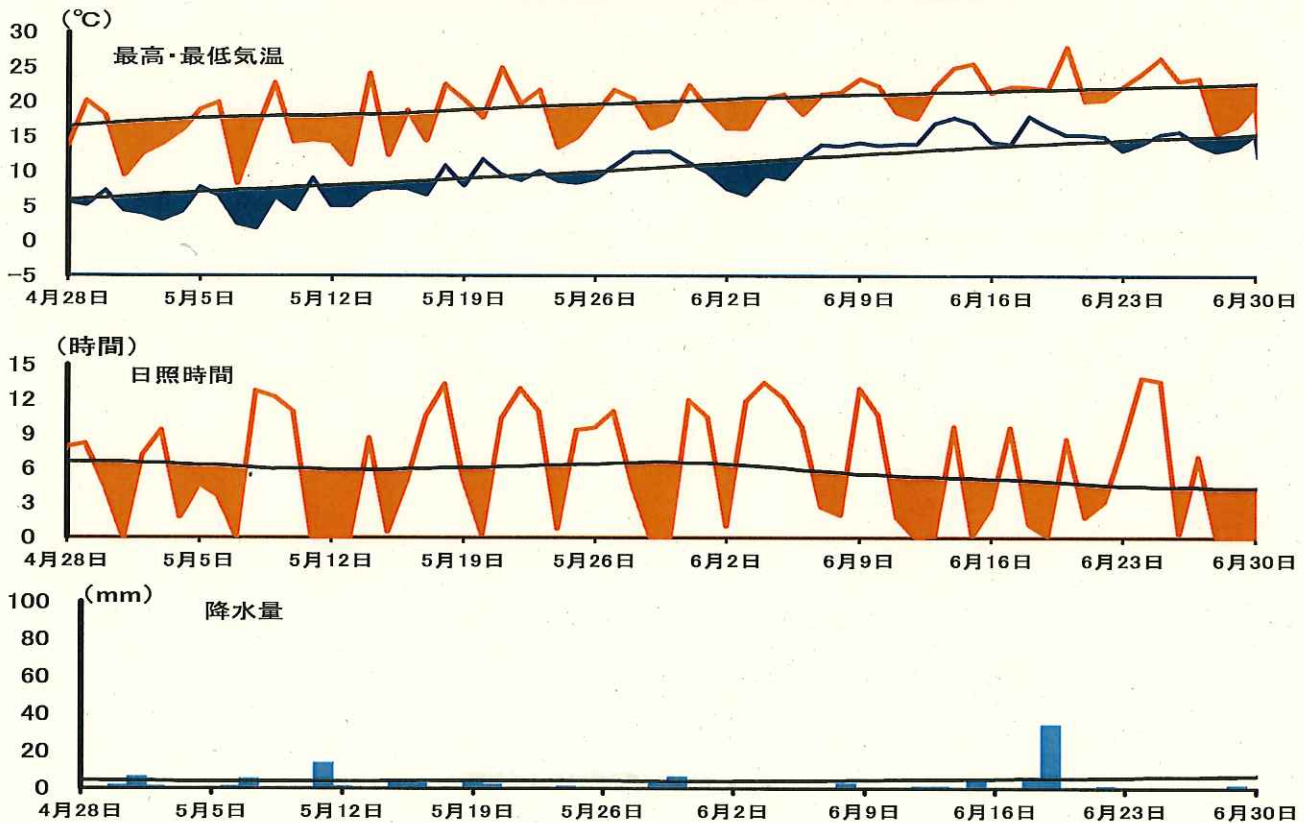


図1 気象経過図(気仙沼アメダス:4/28~6/30)

気象経過

6月6半旬は低温・少照、最高気温が平年を大きく下回る

6月5半旬は気温が平年並みからやや高く、日照時間も平年を大きく上回り推移しましたが、6月6半旬は一転し、平年と比較して平均気温で1.7℃、最高気温で2.8℃低く、日照時間も平年比35%と低温・少照で経過しました。

また、東北地方南部は平年より6日遅い6月18日に梅雨入りしていますが、6月5~6半旬の降水量は平年を大きく下回りました。

表1 半旬別気象表(気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	H25	平年	差	H25	平年	差	H25	平年	差	H25	平年	比	H25	平年	比
6月1半旬	13.5	15.7	-2.2	18.7	20.5	-1.8	8.5	11.4	-2.9	49.1	31.5	156%	0.0	19.7	0%
6月2半旬	16.6	16.3	0.3	21.4	21.0	0.4	13.5	12.3	1.2	38.0	28.4	134%	3.0	22.0	14%
6月3半旬	18.3	16.8	1.5	21.8	21.4	0.4	16.0	13.2	2.8	11.9	26.4	45%	7.0	24.4	29%
6月4半旬	19.1	17.4	1.7	23.2	21.8	1.4	15.6	13.9	1.7	22.3	24.9	90%	38.0	26.3	144%
6月5半旬	18.3	17.9	0.4	22.7	22.1	0.6	14.6	14.6	0.0	40.5	22.7	178%	1.5	28.7	5%
6月6半旬	16.7	18.4	-1.7	19.7	22.5	-2.8	14.4	15.1	-0.7	7.5	21.7	35%	2.5	31.8	8%

生育経過

草丈は長め、必要茎数は確保、葉数はやや少ない

- ・6月下旬の天候が日照時間は多かったものの低温であったことから、生育はやや停滞しました。
- ・気仙沼市本吉町の生育調査ほ(ひとめぼれ)では、平年と比較して、草丈は長い(平年比107%)、茎数は少ない(平年比88%)、葉数はやや少ない(平年差-0.3枚)、葉色は平年並み(平年比97%)となっています。
- ・南三陸町入谷の生育調査ほ(ササニシキ)では、平年と比較して、草丈は長い(平年比113%)、茎数は平年より多い(平年比107%)、葉数はやや少ない(平年差-0.5枚)、葉色は平年並み(平年比98%)となっています。
- ・茎数はすでに必要茎数を確保しましたが、葉数はやや少なく平年より若干の遅れがみられます。

表2 生育調査結果

調査地点名 品種名 (田植日)		6月20日調査				7月1日調査			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
生育調査ほ	平成25年	34.8	517	7.8	44.6	47.7	602	9.1	39.6
	前年	28.5	443	7.2	40.8	38.2	667	8.9	39.0
気仙沼市本吉 ひとめぼれ (5月12日)	平年	31.0	515	7.9	41.3	44.5	683	9.4	41.0
	前年比(差)	122	117	0.6	109	125	90	0.2	102
	平年比(差)	112	100	-0.1	108	107	88	-0.3	97
生育調査ほ	平成25年	37.3	523	7.8	42.3	48.7	624	9.1	38.6
	前年	28.3	350	7.0	39.8	35.6	612	8.7	38.6
南三陸町入谷 ササニシキ (5月15日)	平年	31.5	424	7.9	39.4	43.1	584	9.6	39.2
	前年比(差)	132	149	0.8	106	137	102	0.4	100
	平年比(差)	118	123	-0.1	107	113	107	-0.5	98

注: 平年値は過去7カ年(平18~24年)のうち最大値年(平20)と最小値年(平18)を除いた5カ年の平均値

今後の技術対策

必要茎数を確保したら中干しの実施を

◎水管理

- 必要茎数が確保されたら(450本/m², 株あたり20~25本が目安), 早めに中干しを開始して, 過剰分けつの発生を抑制しましょう。
- 中干しは7~10日間を目安に, 土の表面に亀裂が軽く入り足跡が付く程度まで行ってください。水はけの悪い水田では溝切りを行うと中干しの効果が高まります。
- 中干し終了後, 急に湛水状態にすると, 有機物の分解が促進されるなど還元状態が進み, 酸素不足となり根を痛めやすくなります。そのため, 中干し終了直後は走り水程度とし, その後は間断かん水としてください。

◎雑草防除

- オモダカ, シズイ, コウキヤガラなどの多年生雑草やヒエが多発しているほ場が散見されます。これらの雑草が多発したほ場では, 斑点米カメムシ類の発生が助長されるほかに, 穂数減少などによりかなりの減収となることがありますので, 後期除草剤などで防除して下さい。
- 後期除草剤の使用時期は, 幼穂形成期前(7月上旬)までです。散布時期が遅れると水稻に対する生育障害が生じやすいので, 遅れないように処理してください。また, 使用時に低温が続く場合は散布を控えて下さい。
- 使用量や使用方法は薬剤や対象草種ごとに違っていますので, ラベルを読んで確認した上で使用して下さい。

◎病虫害防除

《葉いもち》

- 病虫害防除所の発生予察によると, 葉いもちの発生開始時期は, 平年よりもやや早い6月6半旬(6月26~30日)で, 発生量は平年並とみられています。
- いもち病は, 平均気温19~25℃で多湿のとき感染しやすくなります。病虫害防除所の「葉いもち

の感染好適日の推定(BLASTAM)」によると、7月1日現在で葉いもちの感染に好適な気象条件は発生していませんが、水田の見回りを行い、早期発見に努めてください。

- いもち病の発生が認められた場合は、すでに周辺の株に感染している可能性がありますので、周辺のは場も含めて直ちに治療効果のある茎葉散布剤で防除してください。

注意!

- * 茎葉散布剤を使用する場合は、耐性菌の出現や増加を避けるため、同一系統薬剤の連続使用や多数回散布は行わないでください。
- * 薬剤のラベルをよく読み、使用基準を守って散布してください。
- * 散布時は、周辺環境等への薬剤の飛散に気をつけてください。また、薬剤は飛散が少ないDL粉剤を選定するなどしてください。

《斑点米カメムシ類》

- カメムシ類はイネ科やカヤツリグサ科雑草の穂で増殖します。畦畔や雑草地は、雑草の出穂前に刈り取るよう努めてください。草刈りは地域で一斉に行うと効果が上がります。
- 草刈りは出穂10日前(7月下旬)までに終わらせましょう。それ以降の草刈りは、カメムシ類を水田内に追いやることになります。
- 水田内のイヌホタルイ、シズイやヒエ等の残草は、カメムシ類の水田への侵入および斑点米被害を助長します。後期除草剤などにより確実に除草してください。

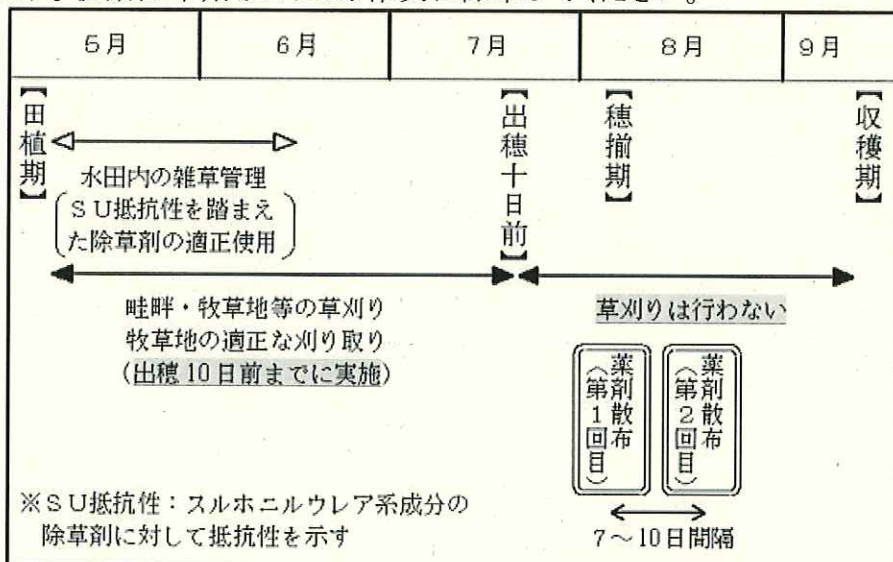


図2 斑点米カメムシ類の防除体系

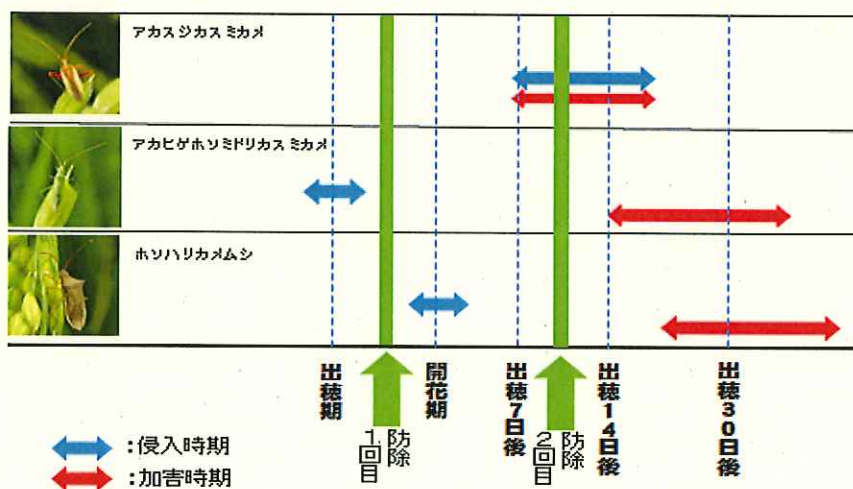


図3 斑点米カメムシ類の生態と防除時期